

MAGAZINE

2012 No.45



巻頭特集

Shizuki Asato Live 2011
THE PRAYER VI
ザ・プレイヤー・シックス

SPECIAL REVIEW

2011年12月14日(水)、15日(木)
六本木スイートベイジル139

コンサート「夜明け」

2011年11月22日(火) 大阪・サンケイホールブリーゼ
2011年11月24日(木) 愛知県芸術劇場 大ホール

2012年早くも重大発表! 今年もよろしくお願いします。

巻頭特集

SPECIAL
REVIEW

Shizuki Asato Live 2011

THE PRAYER VI

ザ・プレイヤー・シックス

2011年12月14日(水)、15日(木)・六本木スイートベイジル139

姿月あさと、恒例の
セルフプロデュースライブ
第6弾。

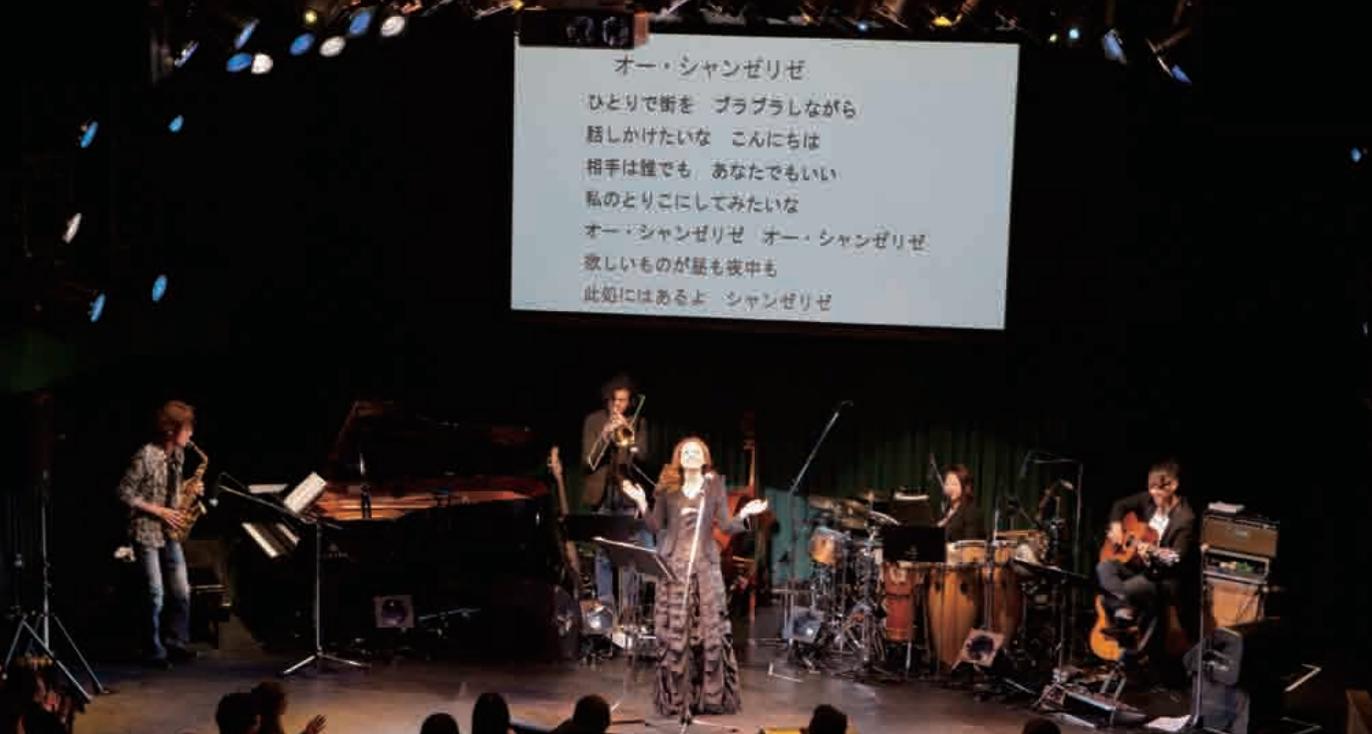
STB 139
スイートベイジル



2011年を締めくくる最高のライブ

昨年12月14日、15日の2日間六本木のSTB139で行われました「THE PRAYER VI」。異例の年内2回目となる「THE PRAYER」シリーズの最新作は、2011年の締めくくりにふさわしい最高のライブになりました。

ここでは当日の様子などをお伝えしていきます。



オー・シャンゼリゼ
 ひとりで街を ブラブラしながら
 話しかけたいな こんにちは
 相手は誰でも あなたでもいい
 私のとりにしてみたいな
 オー・シャンゼリゼ オー・シャンゼリゼ
 欲しいものが届く夜中も
 此処にはあるよ シャンゼリゼ



- <曲目リスト>
1. デイドリームビリーパー
 2. なごり雪
 3. あの日に帰りたい
 4. 異邦人
 5. 約束の花束
 6. 恋ごころ
 7. パリの空の下セーヌは流れる
 8. オー・シャンゼリゼ
 9. summertime
 10. モルダウ
 11. アメイジング・グレイス
- <アンコール>
12. リベルタンゴ
 13. 夜明け

巻頭特集

Shizuki Asato Live 2011 THE PRAYER VI

ザ・プレイヤー・シックス

最高のライブにするために

コンサート「夜明け」朗読劇「ラブレターズ」の公演も終わりほつと一息とはいかない姿月。今度は「THE PRAYER VI」が待っています。12月某日、都内某スタジオにてリハーサルが行われました。メンバー揃い踏みで全ての曲を入念に練習していきます。

《この曲は誰から入るか》、《ここはこうした方がいい》、《このテンポでいつてみようか》…。打ち合わせにもほとんど熱がこもっていきま

す。始めはスタジオ内にいた我々スタッフも、次第に邪魔になつてはいけな

いと、スタジオを後にしモニターにてリハーサルの様子を見ていました。

前日にもリハーサルを行いました。が、その様子はまさに本番さながら。メンバーの皆様が衣装を身に纏えば、その場はすぐにでも「THE PRAYER VI」の会場に早変わりするほど真剣そのものでした。

「THE PRAYER VI」初日を迎えました。

名曲のオンパレード

「デイドリームビリーパー」のイントロから始まり姿月が客席から颯爽と登場。ファンには嬉しい演出ですね。

「デイドリームビリーパー」が終わるとメンバー紹介を兼ねたMCが始まります。ここから最高のライブの幕開けです。「なごり雪」、「あの日に帰りたい」、「異邦人」、「約束の花束」、「恋ごころ」、「パリの空の下セーヌは流れる」とノンストップで続いていきます。大阪、名古屋での「夜明け」で演奏した曲でも、メンバーが違うことで全く違った印象を持った曲に変わっています。くので、何度でも聞きたくありません。

姿月「先生」のレッスン

すでに恒例となつています。お客様参加型コーナー、前回の「THE PRAYER VI」は、客席から選ばれた数名が曲にあわせて、姿月が吹く笛のリズムを覚えてその後に続いて笛を吹くというものでしたが、今回は……

なんと往年の名曲「オー・シャンゼリゼ」を歌うというものでした。それも一人で、しかも立たされます(笑)

あの会場で、多くのお客様が見守る中、マイクを持って歌うというのはなかなか度胸が要されるものだと思います。その栄えある1名の方は姿月がランダムで指名します。当日に誕生日を迎えられた方や、この日のために中国からいらつした方など様々で、中にはやはりどうしても恥ずかしくなり、一緒にきていた娘さんにバトナタッチする方もいらつしていました。

姿月の後にあるスクリーンに歌詞が投影されます。姿月の合図に合わせて歌いはじめますが、少しでも音が外れたりテンポがずれたりするとストップが入ります。

中にはあれ、おかしかったかなというような細かなミスも、逃がさず指摘して教えていきます。姿月がお客さんにひとつひとつ丁寧に教えていく姿はまさに先生そのもの。

普段プロの歌手からレッスンを受けられることすらめったにな

いことなのに、その相手が姿月あざとであつてはお客様も俄然やる気が出てきます。歌っていくうちに緊張もとけていき、気が付けば皆さん自然に歌っていました。歌いはじめとは確実に上達しているように感じられ、歌いきったお客様も教えた姿月も満足した様子でした。今後もういった企画が待っているのか、ということも「THE PRAYER」の1つの楽しみになつていきそうですね。

大変盛り上がった姿月先生とのレッスンのあとは、「summertime」、「モルダウ」を歌い、MCをはさみ最後の曲「アメイジング・グレイス」へ。1度舞台を後にしたもののアンコールのため再度舞台へ戻ってきました。

「リベルタンゴ」を歌い、ラストを飾るのは、早くも姿月の代名詞とも言える「夜明け」。

2011年の最後を飾る「THE PRAYER VI」は大盛り上がりの中、幕を閉じました。





SPECIAL REVIEW



姿月あさとコンサート「夜明け」

2011年11月22日(火)・大阪サンケイホールブリーゼ / 11月24日(木)・愛知芸術劇場大ホール

<曲順リスト>

- 1. sing sing sing
- 2. デイドリームビリーパー
- 3. なごり雪
- 4. 異邦人
- 5. Rose
- 6. Summertime
- 7. 伝説のチャンピオン
- 8. 青空の鳥、籠の鳥
- 9. 約束の花束
- 10. 女優

<アンコール>

- 16. アヴェマリア
- 17. 夜明け

確認ばっちり!!
いざステージへ

2011年11月22日(火)大阪サンケイホールブリーゼ。11月24日(木)名古屋・愛知芸術劇場。音響や照明のスタッフがセッティングもまだ終わらない程、早くに会場に入った姿月。楽屋に入つて、すぐにこのコンサートで着る衣装をスタッフと確認していました。その後、メンバーの榎原大さん(ピアノ)、竹下欣伸さん(ベース)、大石真理恵さん(パーカッション)コーラスが到着し、ステージのセッティングが終わり、いざリハーサルです。

メンバーのみなさんが、楽器の調整をしている間、姿月は、客席で自分のステージがどのように見えているのかなど、チェックしているようでした。毎回、この姿を見る度に、ああ、観に来てくださるみなさんの事を考えているのだなあと思える瞬間です。

そうこうしていくうちに、楽器の調整も終わり、全員でリハーサルです。「この曲はやっぱりこうした方がいいかな?」「さっきのところからもう一回やっていますか?」など、お互い確認しながら、リハーサルを進めていきました。

ギャップにやられた! オモシロMCと 本気のステージ。

本番では、メンバー3人の演奏と姿月の歌での表現がとても真剣且つおおらかで、MCで飛び出す関西弁のギャップがあつて、かなり楽しめたのではないのでしょうか?衣装は曲目に合わせて4ポーズ(是非、写真でくらんください!)。終始和やかなムードでのライブだったかと思えます。姿月も本当に楽しそうでした!

中でも印象に残ったのは、大阪での「椰子の実」です。鮮やかな黄緑のノースリーブAラインジャケットを着た姿月が、MCの中で「トンドンぶら〜とんぶら〜と流されそうな感じ」と話していました。会場のあちらこちらからもクスタスと笑い声が聞こえてきました。そして、「歌えるもんなら歌ってみやが」と、歌えるもんなら歌ってみやが

幻想的なステージから 等身大のステージへ。

「れ!」という言葉どおり、「これが椰子の実なの?」というくらい原曲を崩した見事なアレンジが施されておりました。会場では、こりゃ歌うのは難しい!でも思わず歌っちゃった!とか、みなさんぞ楽しまれたことでしょう。

アンコールは2曲。ピアノの榎原大さんと「アヴェマリア」を歌いあげました。ステージの後方にキラキラと星のような明かりがあつて、まるで夜空の中にいるような感覚でした。そして、最後の曲はコンサートのタイトル通り「夜明け」です。黒いジャケットに黒いロングワンピース姿の姿月。あまりにも美しすぎる音と歌声で、歌詞がずっと心に入ってきて、こらえきれず涙がこぼれた方もいたとか。こうしてコンサート「夜明け」は、幕を閉じました。